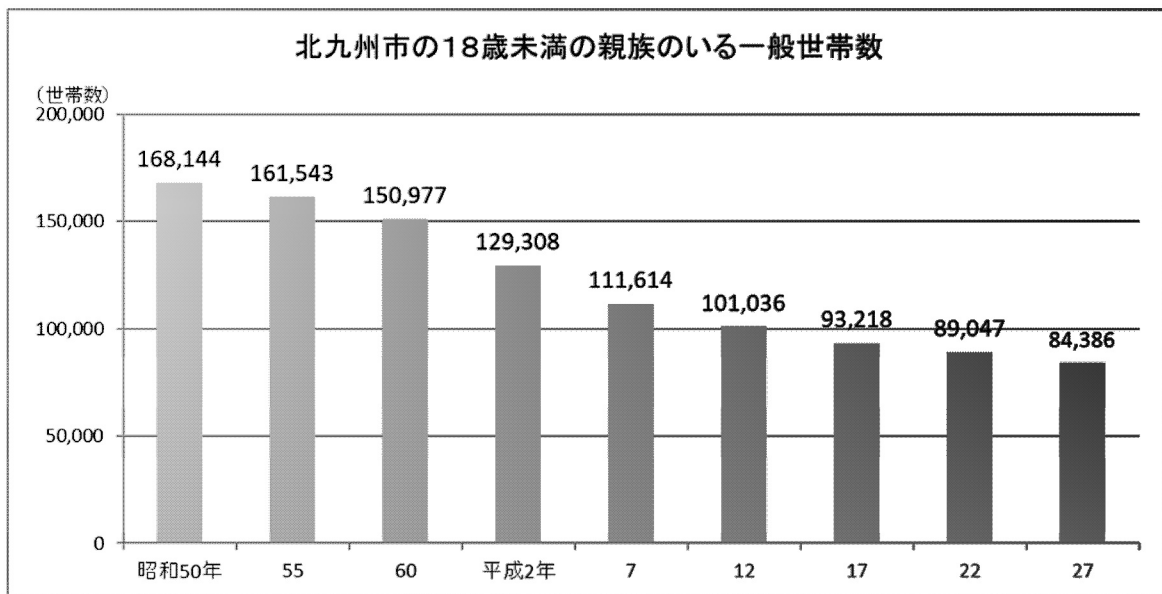


資料：総務省「国勢調査」

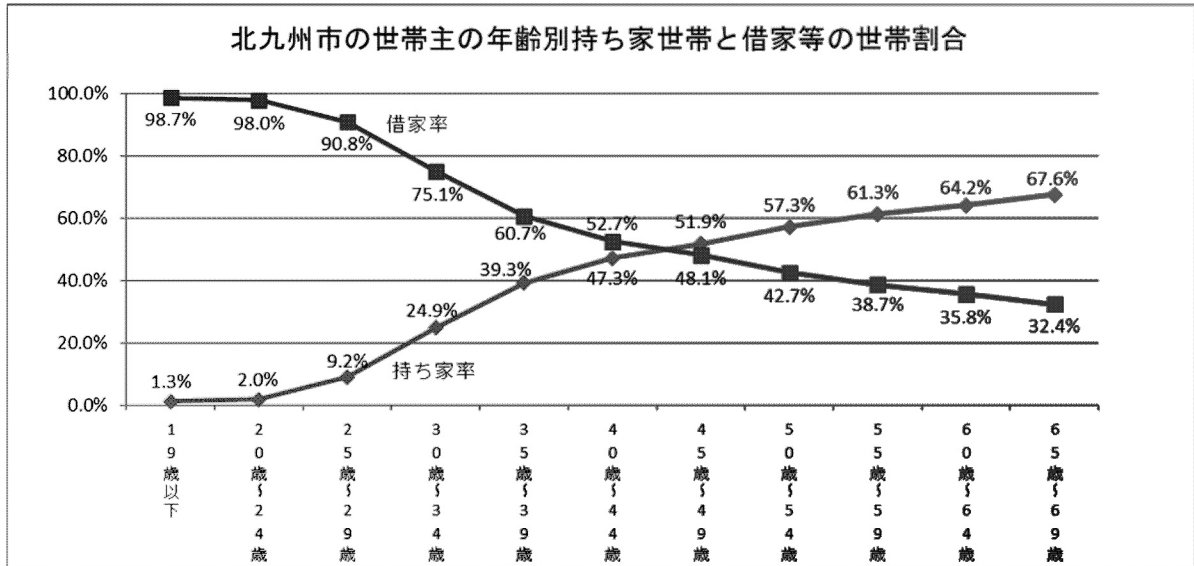


資料：総務省「国勢調査」

エ. 住宅事情

平成 27 年の本市の住宅所有割合は、持ち家世帯 54.3%（平成 22 年 53.2%）、民営の借家世帯 29.8%（同 29.6%）、公営の借家世帯 7.7%（同 8.1%）でした。

世帯主の年齢別に見ると、40 代で持ち家に住む世帯と借家に住む世帯の割合が逆転し、持ち家世帯の方が多くなっています。



資料：総務省「国勢調査」

オ. 北九州市の財政運営

本市は、厳しい財政状況の中で、少子高齢化対策や、安全・安心への取り組みなど多様な行政需要に対応していくことが求められています。こうした状況に的確に対応していくため、北九州市行財政改革大綱に基づき、より一層の「選択と集中」を行いながら、持続可能で安定的な財政の確立、維持に努めていく必要があります。

2 「子ども・子育て支援に関する市民アンケート調査」からみた子どもや子育てに関わる現状や意識

(1) 調査の概要

ア. 調査の目的

本調査は、「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」の次期計画【令和2～6年度】（「子ども・子育て支援事業計画」を含む）の策定にあたり、計画をより実効性のあるものとするため、家庭の状況や子育ての実態、保護者の意識などを把握することや、教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算定することを目的として実施しました。

イ. 調査対象・回収結果

調査対象	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童の保護者（調査票Aを配布）	5,000	2,314	46.3%
就学前児童の保護者（調査票Bを配布）	3,000	1,559	52.0%
小学生の保護者	3,000	1,493	49.8%
中学・高校生の保護者	3,000	1,396	46.5%
18歳から39歳の男女	3,000	864	28.8%
計	17,000	7,626	44.9%

※対象者は、住民基本台帳より無作為抽出。

ウ. 調査方法 郵送調査

エ. 調査期間 平成30年12月3日～平成30年12月20日

オ. 調査実施機関 調査企画：北九州市 子ども家庭局子ども家庭部総務企画課
集計分析：株式会社日本統計センター

カ. 集計・分析上の注意

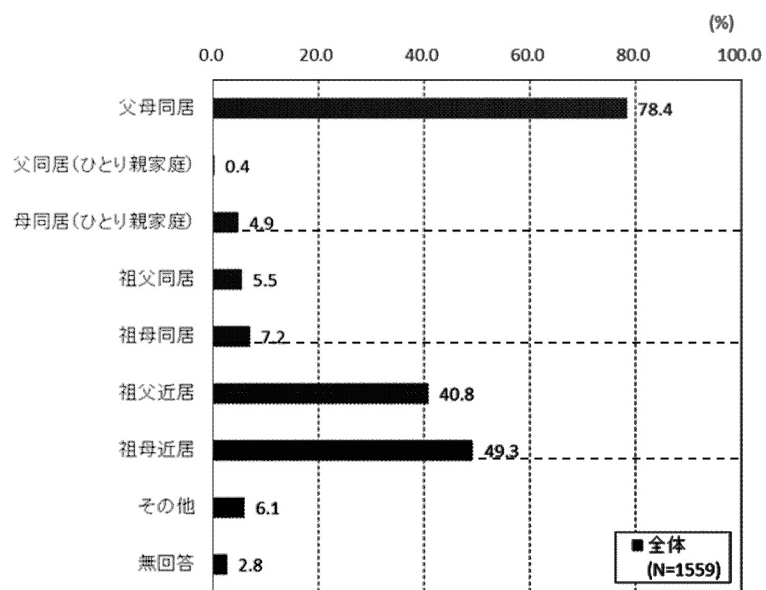
- ・ 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の質問については、合計が100%を超えることがあります。
- ・ 報告内容で、
 - 「就学前」とは就学前児童の保護者を対象とした調査結果
 - 「小学生」とは小学生の保護者を対象とした調査結果
 - 「中高生」とは中学・高校生の保護者を対象とした調査結果を示しています。

(2) 子どもや家庭の状況など

ア. 家族との同居、近居の状況

本市の就学前児童のいる家庭の世帯の状況を見ると、祖父又は祖母と同居しているのは、全体の7.2%となっています。また、子育て家庭の49.3%は、祖父又は祖母が30分以内に訪問できる近くに住んでいます（近居）。同居と近居を合わせると、半数以上が3世代にわたり北九州で暮らしていることが類推されます。

●同居（近居）の状況（就学前児童）

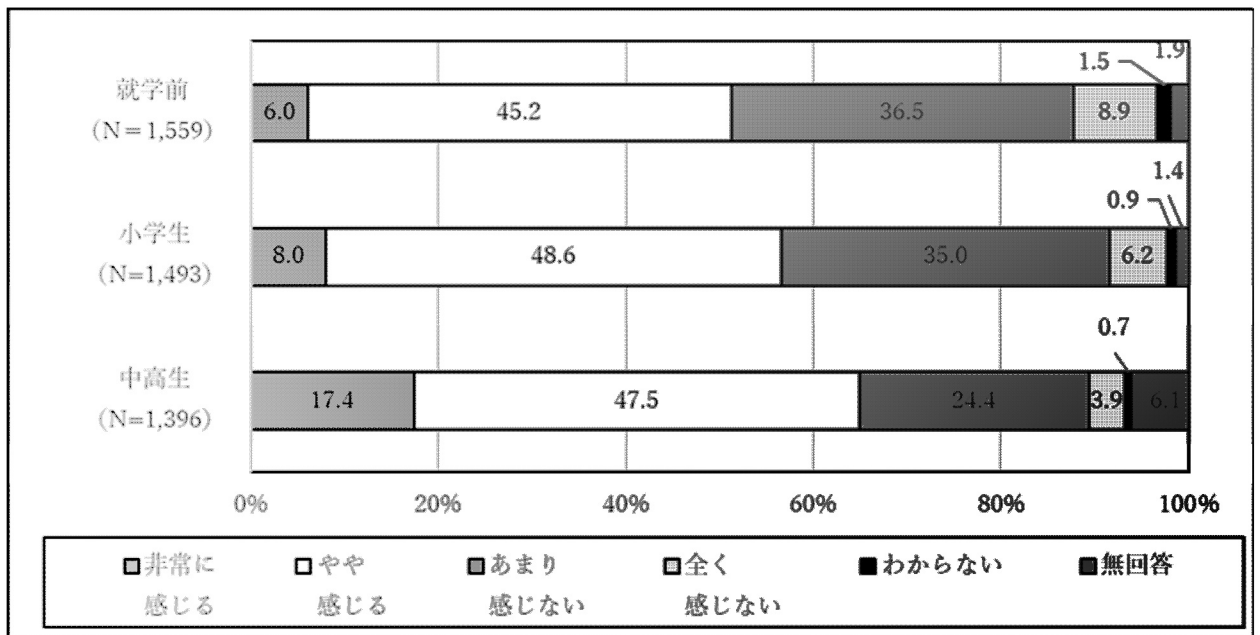


イ. 子育ての悩みや不安・喜び、子育ての相談相手

子育てへの悩みや不安を「感じる」（「非常に感じる」と「やや感じる」の合計）と回答した保護者の割合は、就学前児童 51.2%、小学生 56.6%、中学・高校生 64.9%となっています。

一方、「感じない」（「あまり感じない」と「全く感じない」の合計）と回答した割合は、就学前児童 45.4%、小学生 41.2%、中学・高校生 28.3%となっています。

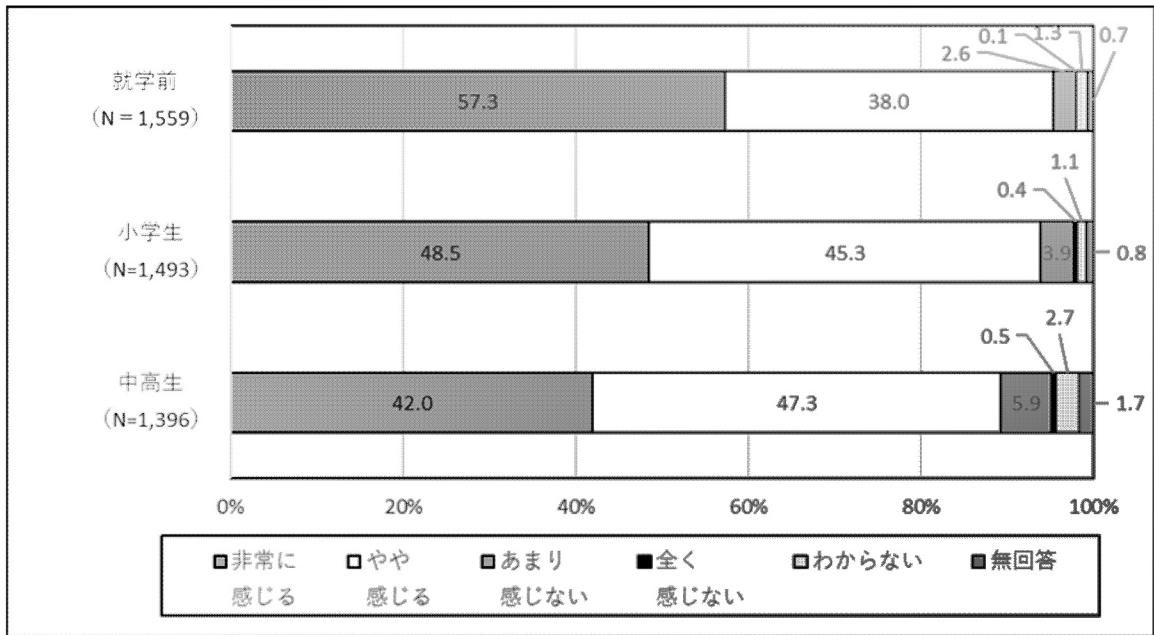
●子育てに関する悩みや不安を感じるか



保護者が子育てをされていて楽しいと「感じる」（「非常に感じる」と「やや感じる」の合計）と回答した保護者の割合は、就学前児童 95.3%、小学生 93.8%、中学・高校生 89.3%となっています。

一方、「感じない」（「あまり感じない」と「全く感じない」の合計）と回答した割合は、就学前児童 2.7%、小学生 4.3%、中学・高校生 6.4%となっています。

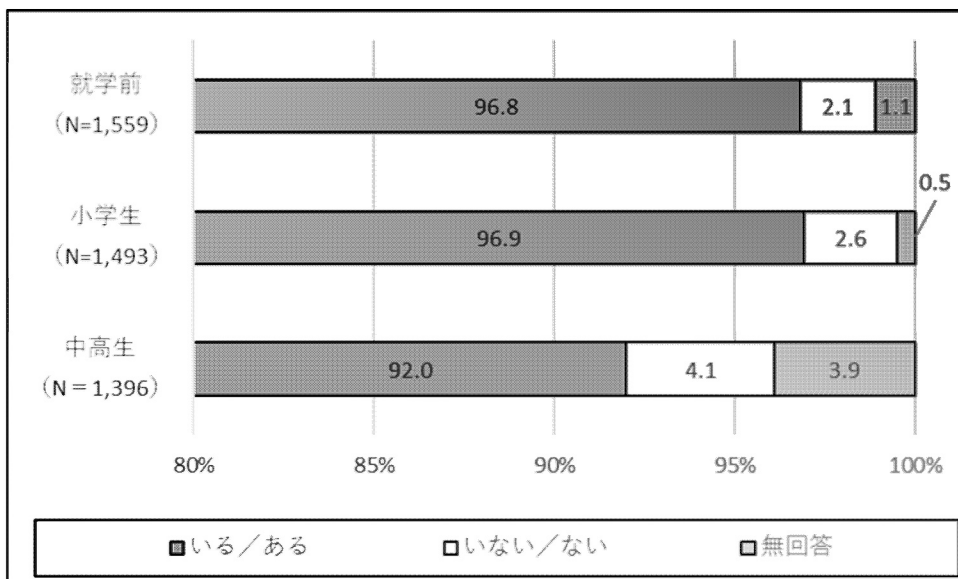
●子育てをされていて楽しいと感じるか



子育ての悩みや不安があっても、相談できる相手がいれば、それが緩和・解消され、喜びや楽しさを感じるにつながると考えられます。

子育てをするうえで、相談できる人（場所）がいるかどうかについてアンケート調査結果をみると、「いる／ある」と回答した保護者の割合は、就学前児童 96.8%、小学生 96.9%、中学・高校生 92.0%となっています。一方、「いない／ない」と回答した割合は、就学前児童 2.1%、小学生 2.6%、中学・高校生 4.1%となっています。

●子育てについて相談できる人（場所）がいるか（あるか）

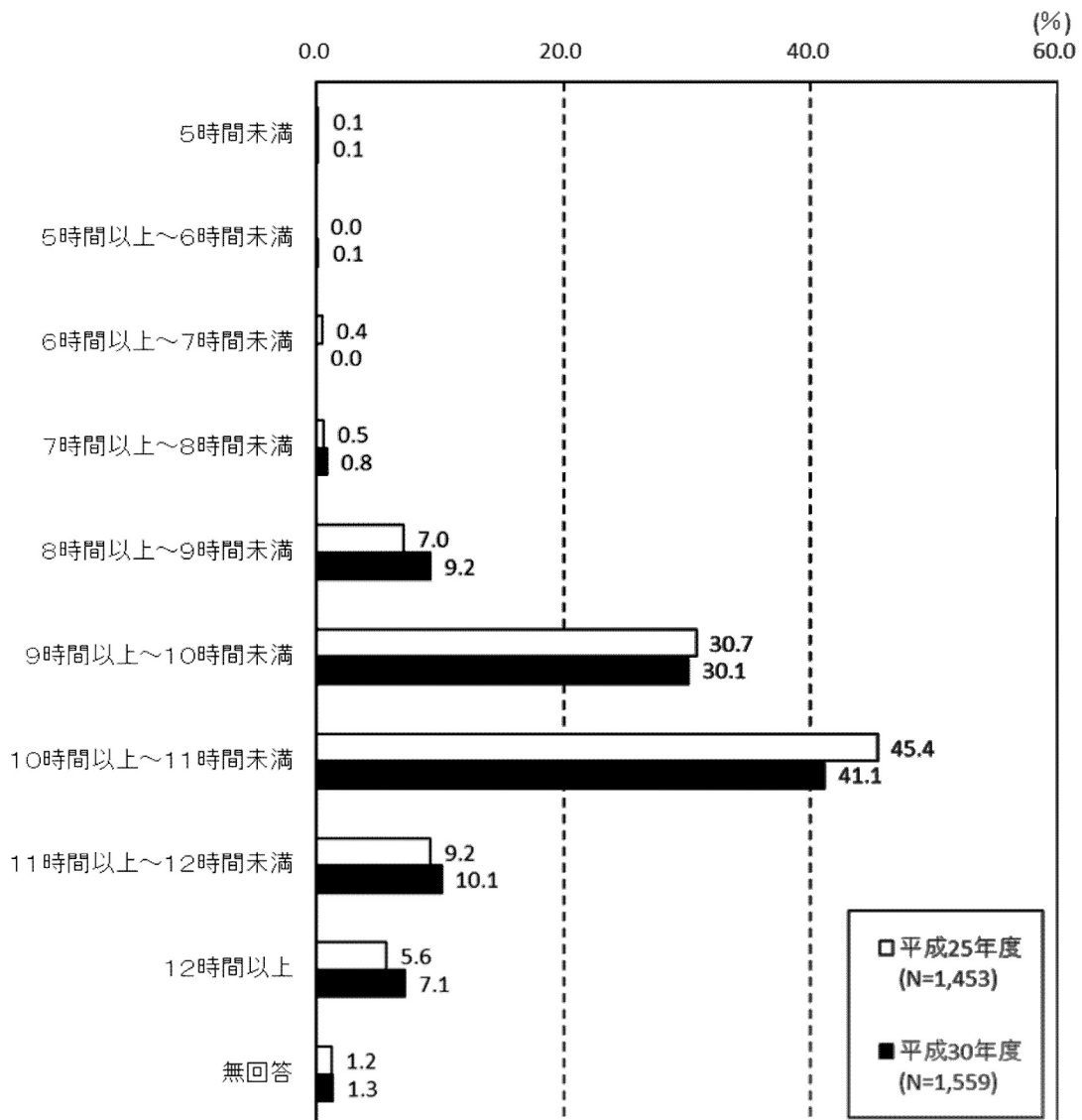


ウ. 子どもの生活状況

しっかり睡眠をとることは、子どもの育ちの面からも非常に重要なことです。

就学前児童の睡眠時間をみると、平均 10 時間以上の睡眠が確保されているのは全体の 58.3%で、前回の調査（平成 25 年度 60.2%）より 1.9 ポイントの減となっています。一方、9 時間の睡眠がとれていない子どもは 10.2%で、前回調査（同 8.0%）よりも 2.2 ポイントの増となっています。

●子どもの平均睡眠時間（就学前児童）



子どもが、放課後どこで過ごしているか調べたところ（保護者回答）、小学生も中学・高校生も「自宅」で過ごすことが最多で1位となっています。

2位以下ですが、小学生は、「公園などの屋外」「学習塾や習い事等」、中学・高校生は「学校（部活動等）」「学習塾や予備校等」の順となっています。

●平日、子どもが放課後等で過ごすことが多い場所（抜粋）

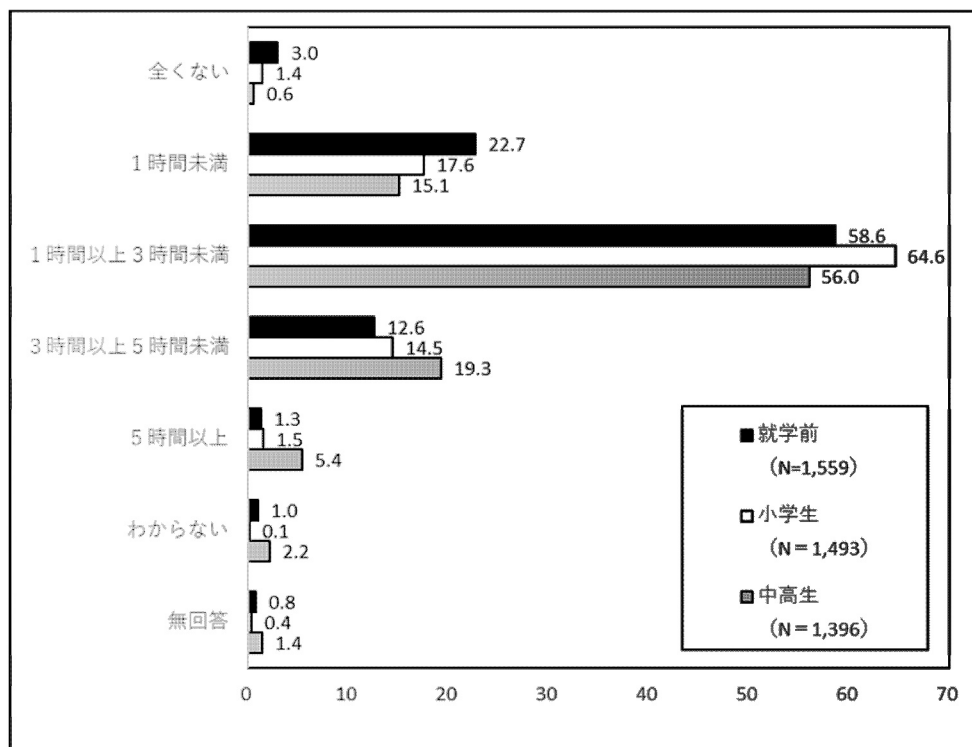
区分	放課後等で過ごすことが多い場所（割合）
小学生 (高学年)	1位 自宅 (68.1%)
	2位 公園など屋外 (46.4%)
	3位 学習塾や習い事等 (43.9%)
	4位 友達の家 (24.8%)
	5位 放課後児童クラブ (22.4%)
中学・ 高校生	1位 自宅 (79.2%)
	2位 学校・部活動等 (47.3%)
	3位 学習塾や予備校等 (25.9%)
	4位 公園や街中など屋外 (5.8%)
	5位 友達の家 (5.4%)

注：複数回答

スマートフォンの普及等に伴い、子どもがゲームや動画等に触れる機会が増えています。子どもが1日にテレビやインターネット等を見る時間は、就学前児童、小学生、中学・高校生いずれも「1時間以上3時間未満」が半数を超え、最も高くなっていますが、「5時間以上」と回答した割合も一定程度存在し、特に中学・高校生でその割合が高くなっています。

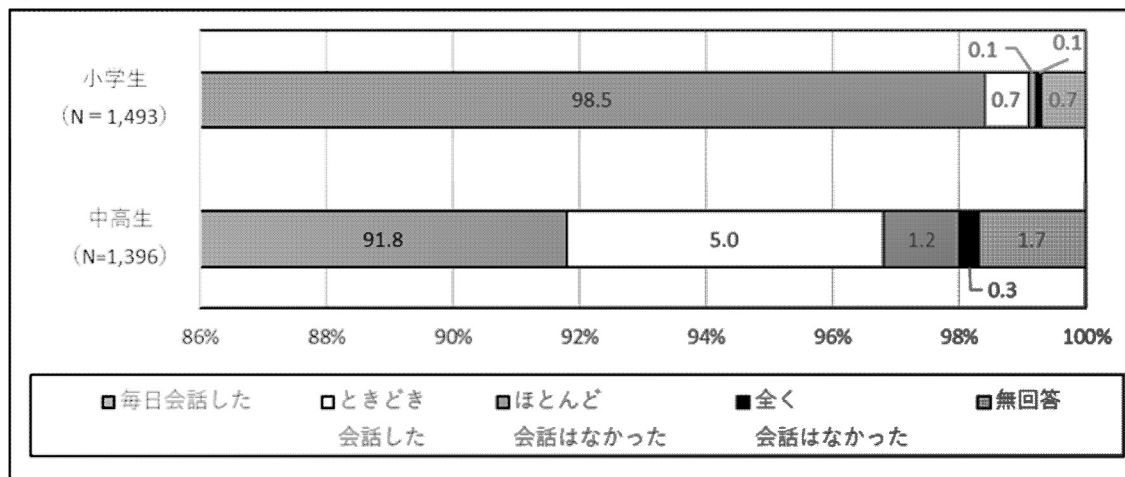
なお、中学・高校生の保護者の約6割（63.0%）が、「子どもの生活で気になること」として、「テレビゲーム機やスマホ等への依存」を挙げています。

● テレビやインターネット等を見る時間



家族との会話は、小学生は、「毎日会話した」が 98.5%となっています。中学・高校生も、「毎日会話した」が 91.8%で最も高くなっていますが、「ほとんど会話はなかった」「全く会話はなかった」の合計も 1.5%となっています。

●家族との会話の状況



エ. 子どもの意識・希望

今回のアンケートでは、前回（平成 25 年度）に引き続き、直接子どもの意見を聞く項目を設けました。（小学生高学年及び中学・高校生）

この中で、希望する「子育て支援策」を聞いたところ、小学生、中学・高校生のいずれも、遊びや学びの機会（場）を希望する声や、安全な環境の充実を求める声が多くなっています。

なお、中学・高校生では、学業や進路など自分の将来の不安や悩みを聞いてくれる相手を求める割合が 44.8%（1 位）となっています。

●子どもが希望する子育て支援策（抜粋）

区分	希望する子育て支援策
小学生 (高学年)	1 位 いつでも安全・安心に過ごせる公園や施設 (56.1%)
	2 位 放課後や休みの日に、安心して遊べ、学び、体験ができる施設・場所 (53.4%)
	3 位 安全で暮らしやすい居住空間や道路環境の整備 (31.8%)
中学・ 高校生	1 位 学業や進路、就業に関する不安や悩みを気軽に相談できる場所 (44.8%)
	2 位 放課後や休みの日に、安心して遊べ、学び、体験ができる施設・場所 (35.6%)
	3 位 安全で暮らしやすい居住空間や道路環境の整備 (30.4%)

注:複数回答